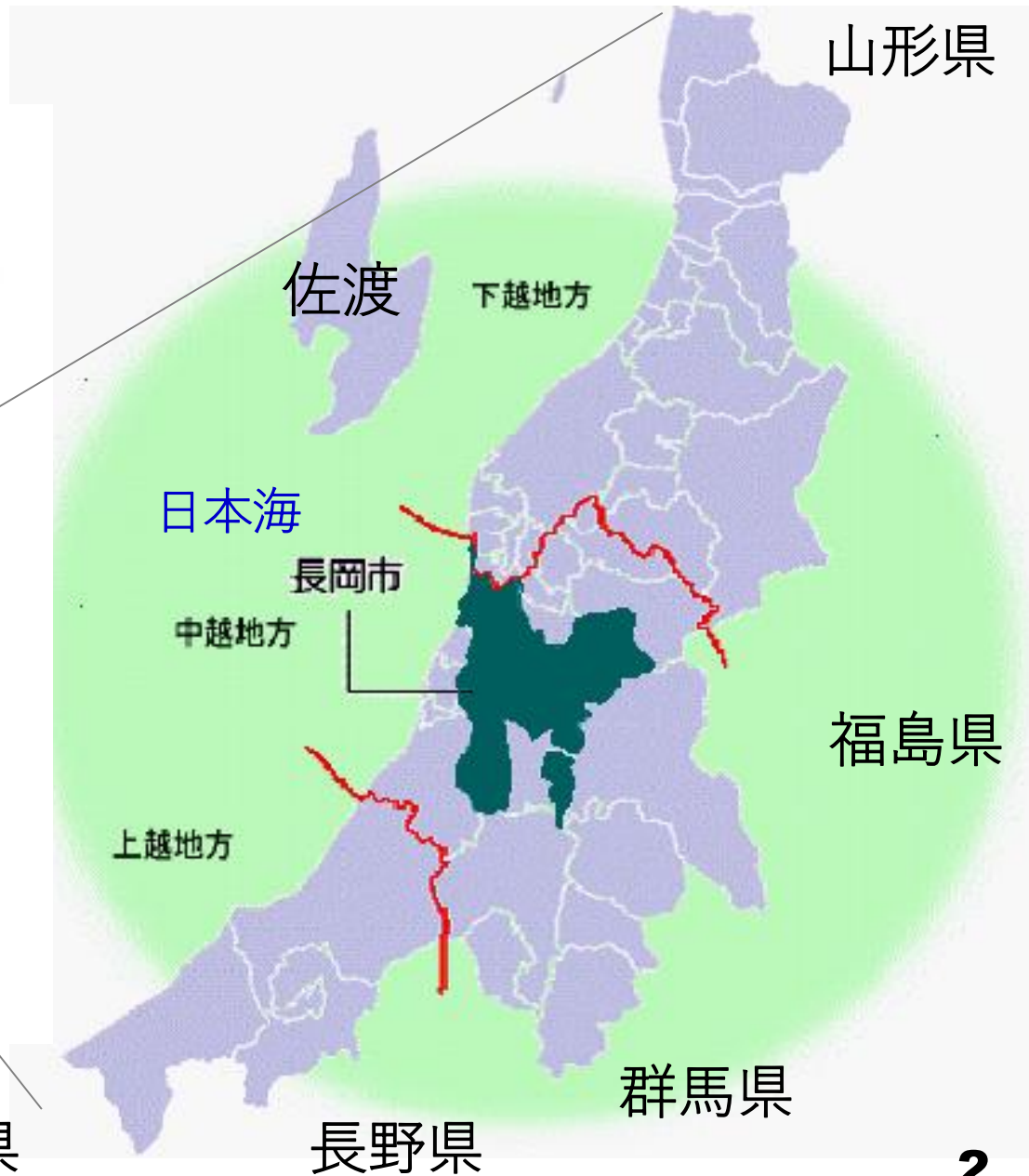
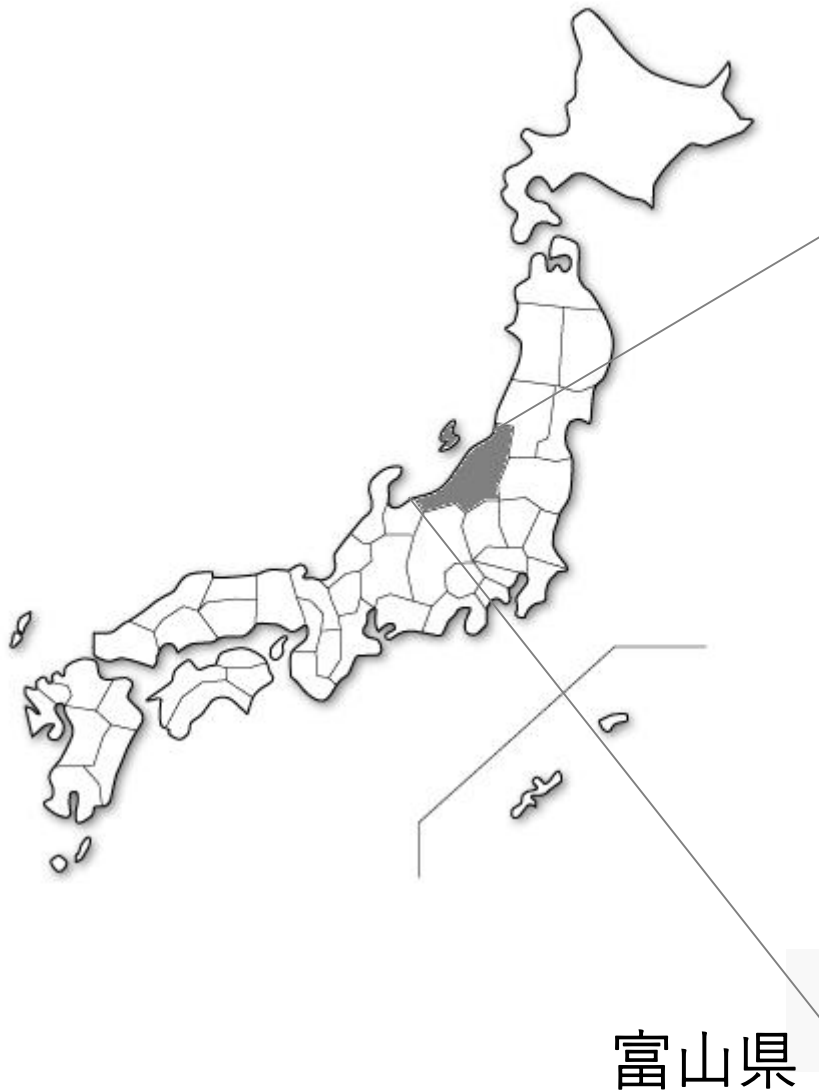


# 長岡市の情報伝達体制について

(緊急告知FMラジオによる防災情報の提供)

長岡市 危機管理防災本部

# 長岡市の位置



# 新長岡市

## 11市町村の 大型合併

平成17年4月1日 5町村が編入  
平成18年1月1日 4市町村が編入  
平成22年3月31日 1町が編入

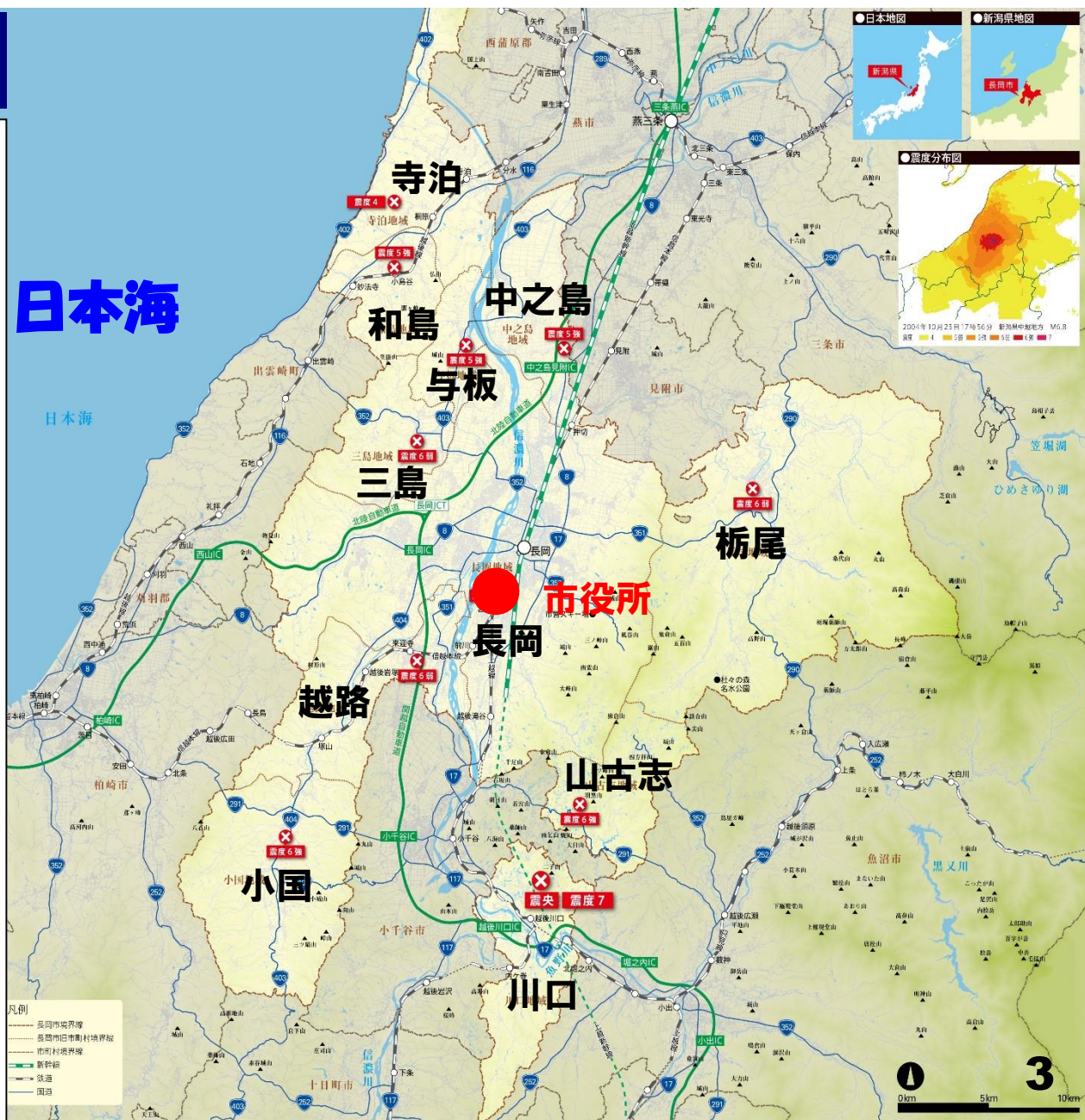
### ● 人口規模

19万3千人 ⇒ 28万4千人

### ● 面積は東京都 23区の約1.3倍

262km<sup>2</sup> ⇒ 891km<sup>2</sup>

### ● 「教育」、「人づくり」を 重視する、米百俵の精神 が生きるまち





# 長岡市の概要



▲復興祈願花火「フェニックス」



▲道の駅ながおか 花火館「ドームシアター」



▲山古志地域伝統の「牛の角付き」

# 災害に見舞われた平成16年

## 水害



刈谷田ダム（旧栃尾市）

日降水量421mm

（500年に1度の量）

## 地震



震度7の地震

（震度計で史上初めての

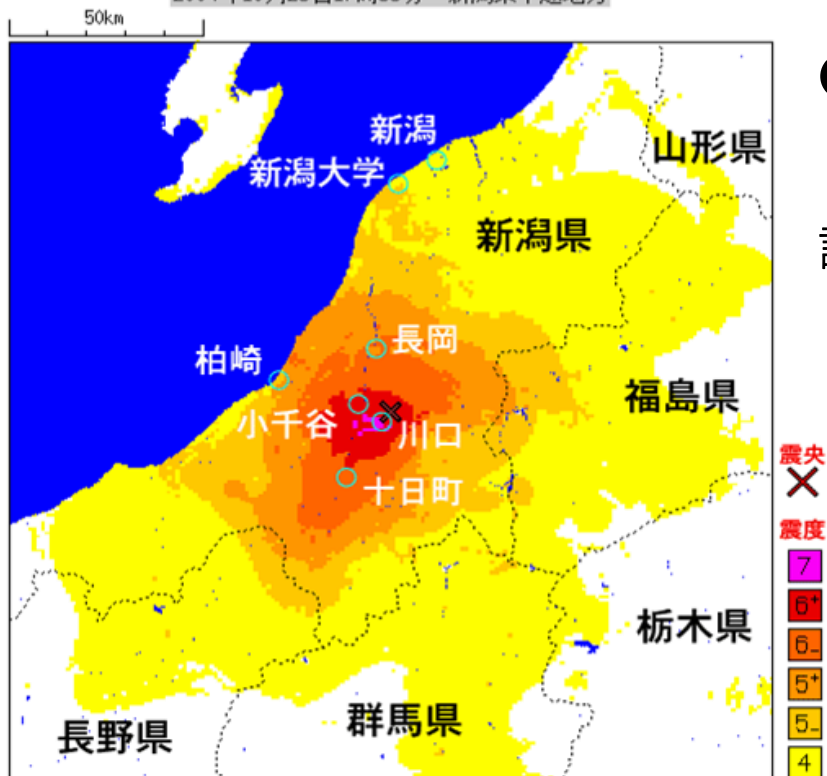
震度7を観測）



# 新潟県中越大震災の発生



2004年10月23日17時56分 新潟県中越地方



北緯37.3度 東経138.9度 深さ 13km M:6.8

長期間にわたり  
大きい余震が断続的に発生！

● 各地の震度  
(震度 7) 川口町

計測震度計で計測を開始以来、**初めて震度 7** を記録

(震度 6 強) 山古志村、小国町

(震度 6 弱) 長岡市、栃尾市、越路町、三島町



崩落した県道 (旧国道17号)は、2年 5 か月ぶりの平成19年 3 月24日に開通



開業以来、初めて脱線した上越新幹線



液状化で浮上したマンホール（約1,300箇所）



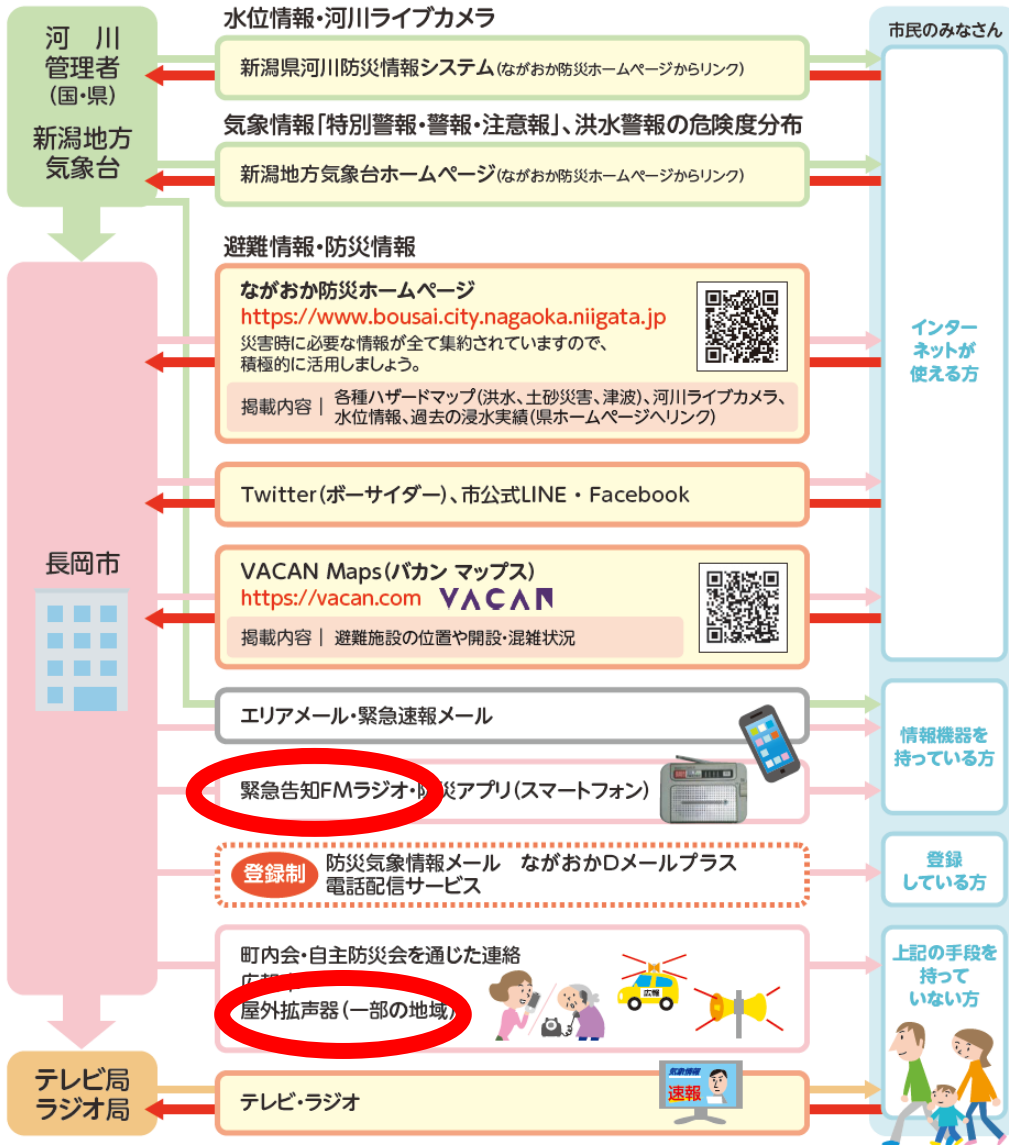
団地の外周道路が大規模に崩落し、住宅が被災



河川閉塞で土砂崩れダムが発生し、住宅が水没



# 長岡市の情報伝達体制



## 市民自らも情報を取りにいく

- インターネットが使える方
- ・水位情報をリアルタイムでライブカメラで水位確認
  - ・気象情報
  - ・長岡市防災ホームページ
  - ・各種SNS

スマホや緊急告知FMラジオから

登録制のサービス

町内会長向け直通回線

テレビやラジオから



# 中越大震災時の情報伝達

## ～コミュニティFM（FMながおか）の活躍～

### ① 震災直後からニュース、生活情報を配信

スーパーマーケット、入浴施設の開店状況、会社の状況、安否情報等

### ② 長岡市臨時災害対策用FM放送局の開設

避難生活を送っている被災者等に対し、災害対策情報や被災者の救援のための生活関連情報等のきめ細かい情報を提供

・免許主体	長岡市
・設置場所	長岡市今朝白1-8-11（FMながおか）
・放送区域 （当時）	長岡市、越路町、三島町、与板町、見附市、中之島町、 小千谷市の各一部地域
・周波数	76.4MHz（現在は80.7MHz）
・空中線電力	20W → 50W（周辺市町村の要望により、エリア拡大）

臨時災害放送局にコミュニティFMを利用（全国で初めて）

# 災害時の情報伝達手段の整備

年度	主な整備内容	
平成16	中越大震災発生 コミュニティ放送局の有効性が認識される	
平成17	市役所、消防本部、FM局に割込み放送装置を設置	
平成18～	緊急告知FMラジオを全国で初めて導入。市民へ無償貸与開始	市内24箇所にもFM屋外拡声器を新たに設置
令和1、2	市内177の屋外拡声器を全てFM化	



# 緊急告知FMラジオ（防災ラジオ）の導入

《緊急告知放送》

長岡市危機管理防  
災本部からお知らせ  
します…



長岡市役所及び消防本部から  
も直接放送出来ます。

長岡市役所からお知  
らせします…



— 特徴 —

- ・緊急時に自動的に受信電源がONとなり最大音量で緊急放送
- ・緊急時には自動的に照明ライトが点灯  
暗闇でも安全に避難が可能
- ・室内設置のため、悪天候でも聞き取ることが可能
- ・停電時には乾電池で稼働



自動的に電源がON  
最大音量で緊急放送

# 緊急告知FMラジオ（防災ラジオ）の普及

- ・ワキヤ技研(株)（FMながおか）が製品開発
- ・H18年度、長岡市が全国で初めて導入  
町内会長、民生委員、避難行動要支援者などに  
約9,000台を無償貸与
- ・高齢の方や障害をお持ちの方には購入費補助制度あり



緊急告知ラジオ <sup>コムフィス</sup> **Comfis-R1** は、  
コミュニティ放送を利用した  
「災害情報伝達ツール」です！

**起動時間約1秒 信頼性の高い起動率**



# FM波を用いた災害時情報伝達システム

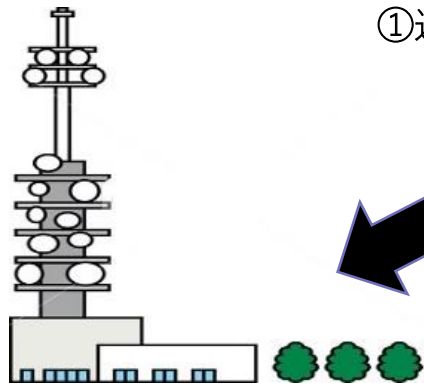
## H17～H22整備

①避難情報の発令を決定



《緊急割込装置》  
本庁  
②本庁から放送

専用線



F Mながおか（親局）

自動起動  
最大音量

緊急告知 F Mラジオ  
（約9,000台）



F M屋外拡声器（24機）



F Mながおか聴取者  
80.7 MHz

## R1～R2整備

支所地域の防災行政無線を  
FM屋外拡声器に移行

情報発信を効率化

屋外拡声子局  
（153機）



F M屋外拡声器に移行  
既設の柱を活用



支所 F M屋外拡声器（153機）

# 最近の防災ラジオ活用の事例

R4.12.19～の豪雪

倒木による停電、孤立

携帯電話の電波も届かず



- 防災ラジオ及び屋外拡声器が活躍
- 自動起動により、情報を発信
- (屋外拡声器は地域で非常用発電機を使用し運用)



# 利用者の声

- 停電時の心細いときに防災ラジオが流れて安心した
- 何かあった時のために、置いておくだけでよいラジオは助かる
- 全戸配布してほしい

一方で・・・

- スマホがある時代にラジオが必要か



# 情報伝達の課題

- 情報発信手段の周知及び模索  
ラジオの有効性の再周知
- 地域との連携
- 関係機関との連携

